

支援センターだより

令和4年7月8日発行

岐阜本巣特別支援学校

地域支援センター部 第2号

子どもたちにかかわる全ての方は、子どもたちが笑顔で過ごし、自らのもつ力を発揮できることを願いながら支援を試行錯誤していることと思います。そのような中でつい、できないことやよくないことばかりに目が向いてしまうことがあるのではないのでしょうか。今回は、子どもたちの望ましい行動を促し、そうではない行動を予防したり、止めさせてくれたりするための手助けとなる支援方法「ポジティブ行動支援」について特集します。

ポジティブ行動支援(PBS)とは？

Positive Behavior Support

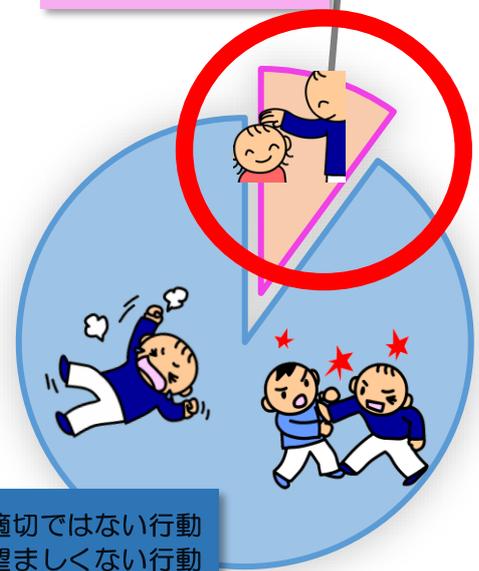
適切で望ましい行動に注目し、それらが起こりやすい状況作りをすることで、適切で望ましい行動を増やしていこうとする方法です。

Positive (ポジティブ) って何？

☆子供が“できることをふやすこと”に着目する。
(ポジティブな行動)

☆問題が“起きることを防ぐような”対応をする。
(ポジティブな働きかけ)

適切な行動
望ましい行動



望ましい行動を増やすために・・・

その子の行動を3つの枠に分けて整理します。行動の前と後に対して適切で望ましい行動を増やすための工夫をします。「行動の前」に行動を起こすきっかけがあり、行動を起こした結果、「行動の後」に良いことが起きるとその行動が増えたり定着したりするという考え方をします。

行動の前

行 動

行動の後

行動の前の工夫

- ☆「やってみたい」とやる気が起こるような仕掛け作り
- ☆スケジュール表や手順表やポイントカード等のツールの活用
- ☆行動する前に説明して、約束する
- ☆どうすれば上手くいくのか、やり方を具体的に伝える

行動の後の工夫

- ☆適切で望ましい行動に近づいたときは、すぐに褒めたり承認したりする。(言葉掛け、シールで視覚化、スタンプや丸付け、一言コメント、ポイントカード)
- ☆望ましくない行動のときは、できるだけ反応しない

次に行動をするときに影響を与えるのは、前回その行動をしたときの「行動の後のできごと」です。つまり、「行動の後」の私たちの支援次第です。そこでのポジティブな働きかけのひとつは、やはり“褒める”ことです。

いろいろあります「褒める」ポイント

- ♪ 「こんな行動をもっとしてほしいな。」というときにすぐ褒める。
- ♪ 「毎日続けてすごいね。」など、子どもが頑張っている姿を褒める。
- ♪ 「この前より〇〇が上手になったね。」など、子どもの以前の様子と比較して褒める。
- ♪ 年齢やその子に合った言葉や方法で褒める。

大切なことは、
子どもがどう感じるかです。



「褒める」という行動の効果を上げるポイントは、子どもの好み、性格、行動のパターン、趣味や興味を十分に知っておくことです。学校や保護者、子どもにかかわる人皆でその子について情報交換をし、共通理解を図っておくことがとても大切です。



やってみよう！ポジティブ行動支援



ポジティブ行動支援の考え方に沿って「適切で望ましい行動」が起こりやすいような支援を行うことで、子どもたちは成功体験を積み重ね、周囲に認められる経験を多くすることになります。そして子どもたちは保護者や教師、支援者とよりポジティブな関係を築くことができます。そうした中で、自分のもつ力を発揮し、自らが主役となりながら生活を送っていくことができるのではないのでしょうか。

*もっと詳しく知りたい方は、ポジティブ行動支援に関する書籍やインターネット情報が多数ありますので参考になさってください。

書籍・教材貸出をご希望の方、興味のある方は、担任にお知らせいただくか、お電話ください。

地域支援センター 特別支援教育コーディネーター：高田

岐阜本巣特別支援学校

TEL 058-239-9712

E-MAIL c27398@gifu-net.ed.jp

センター直通携帯電話 090-6806-3774

